



躍動！薩摩川内の若者たち

薩摩川内市の将来を担う子どもたちや若者たち。スポーツや文化、その分野はさまざまけれど、真摯にそして一生懸命に取り組むその姿は、いつの時代も私たちに勇気と感動を与えてくれます。今回は、さまざまな分野で活躍する若者たちの軌跡を追い、ご紹介いたします。

(各年度表記は、取材時(昨年度)のものになります。新年度となり、学年が1つあがっている他、卒業している生徒もいますので、あらかじめご了承ください)

父と二人三脚で つかんだ快拳

小さい頃から父親と二人三脚で柔道と向き合いながら、地域の少年団で鍛錬に励んでいたという久保まこさん。

中学入学後、夏の県総体までにめきめきと力を付けると、川内中央中を1年生ながら団体優勝に導く活躍で、鹿児島県柔道会に衝撃を与えました。

それからは、コロナ禍で大会数が減少したものの、県大会個人戦で4度の優勝を飾り、鹿児島県女子の中心選手として位置付けられ、全国大会優勝を目標にできるほどの選手になりました。

3年生で柔道部の副主将となるも、もともとのおよく気が利く性格から、積極的に後輩たちへ声を掛ける一方で、成績におごることのない努力家の一面を併せ持ち、そのたゆまぬ努力する姿で部員を鼓舞するなど、名実共にチームを引っ張る存在へと成長しました。



柔道

Judo



川内中央中学校3年
久保 まこさん
第52回全国中学校柔道大会
群馬大会
女子70kg級 3位

県大会を圧倒的な力で優勝し、九州大会に臨みましたが、準決勝で不運にも左肩を脱臼し、一時は、全国大会の出場すら危ぶまれました。

しかし、そこから懸命な治療と周囲のサポート、本人の強い思いにより奇跡的な回復を見せると、力強い戦いぶりで全国3位を勝ち取ったのです。

「全国大会で3位になったことによって、自分を信じて努力し続ければ目標を達成できるということを学びました。きつい練習にくじけそうになることもありましたが、3年間の努力が報われて良かったです。自分を育ててくださった全ての方々に感謝したいです」



▲トロフィーを片手に屈託のない笑顔を見せるまこさん。

小学生最後の舞台で 輝いた仲良しコンビ

バドミントン

Badminton



川内ジュニアバドミントンクラブ
永利小学校6年 馬場 結渚さん
横路 昊和さん

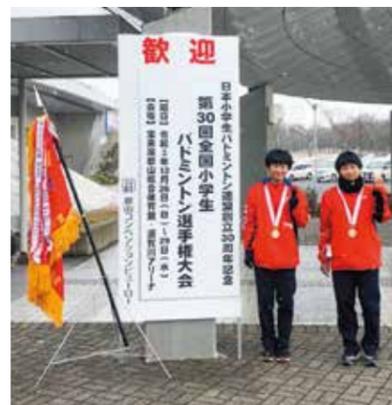
第30回全国小学生バドミントン選手権大会
都道府県対抗団体戦 優勝
女子ダブルス6年生以下 3位

小学4年生からペアを組み、共に腕を磨いてきた馬場結渚さんと横路昊和さん。

お互いの良いところを尊敬し合い、悪いところは指摘し合うなど常に2人で話し合ってきたと言います。相手の弱いところや隙を突いてチャンスを狙う昊和さんと、どんな状況でも粘り強く守る結渚さん。

2人はあうんの呼吸でローテーションし、守りから流れを作るタイプのダブルスです。

昨年度、日本小学生バドミントンフェスティバルinくまがやで見事3位入賞となった2人でしたが、その



結果に甘んじることなく、小学生最後の舞台で頂点となるべく切磋琢磨してきました。

指導していただいたコーチ、支えてくださった方々に恩返しがしたいと臨んだ本大会。ダブルスでは、準々決勝で序盤、緊張から思うように体が動かず1セットを先取されませんが、そこから声を張り上げ強い気持ちと気迫で2・3セットを奪取し、逆転で準決勝へ上がります。

準決勝で惜しくも敗北し、昨年度と同じ3位という結果になりました。都道府県対抗団体戦では、6人の構成メンバーに選抜され、準決勝以外の試合を任せられ、鹿児島チームを優勝に導くなど小学生最後の挑戦で見事有終の美を飾りました。

初出場でも全国3位 まだまだ発展途中

バドミントン

Badminton



川内ジュニアバドミントンクラブ
永利小学校2年 宮内 陽菜子さん
日本小学生バドミントン
連盟創立30周年記念
ジュニアバドミントン
フェスティバル INさいたま
女子Cグループ(2年生以下) 3位

5つ年上のお姉さんが習っていたバドミントンを見て、「自分もやりたい」と5歳から始めたという宮内陽菜子さん。

真面目で丁寧、そして少し恥ずかしがり屋だという彼女は、大好きだというバドミントンの練習も、一生懸命取り組みます。

そして、同じ永利小学校の先輩には、馬場結渚さんと横路昊和さんがいます。



馬場「楽な試合は一つもなく、途中、不安になることもありましたが昊和ちゃんと声を掛け合い、最後まで戦うことができました。中学生になっても、また全国の舞台で結果が残せるよう頑張ります」



横路「昨年、一昨年と優勝できず、今年こそはと一年間頑張ってきました。女子ダブルス戦の準決勝では『絶対勝つ』と思ったけど、負けてしまいました。悔しかったけど小学校最後の、団体優勝できて良かったです」

新年度、中学生になる2人は、同じ中学に進み、頂点を目指して頑張ります。



「2人は、憧れで目標の選手です。いつも優しく教えてくれます」

少し照れながら笑顔で話してくれた陽菜子さんは、まだあどけない小学2年生です。

保育園で6年間一緒だった仲良し同級生の男の子と年中組の時から、一緒にバドミントンで切磋琢磨し、フェスティバルでは、一緒に鹿児島県代表として出場しました。

すると、彼女にとって、初の全国大会にも関わらず、あれよあれよと勝ち進み、いきなり2年生以下のCグループで、3位の栄冠を手に入れます。

「バドミントン大好きなので、いろいろな大会に出場して、シングルもダブルスも全国優勝を目指して頑張ります」

さらさら輝く瞳で未来を見つめる彼女の挑戦は、まだ始まったばかりです。